

ご報告日：2015年3月3日

復興庁政務官小泉進次郎氏が ファミリーマート本社へ 来社されました

～ファミリーマートの
「東日本大震災復興支援の取り組み」について
意見交換を行いました～

未曾有の被害をもたらし、多くの方々が被災した東日本大震災から4年を迎えようとしている2月20日（金）、ファミリーマート本社へ復興庁政務官の小泉進次郎氏と復興庁の皆さまが来社され、株式会社ファミリーマート社長の中山と会談し、東日本大震災後のファミリーマートの復興支援への取り組みについて意見交換を行いました。



福島県の高校生との共同開発商品「フラピーイチゴパン」
（東北地区・新潟県で販売）を手に。小泉政務官（右）と
ファミリーマート中山社長（左）

ファミリーマートの復興支援の取り組みに深く関心をお持ちいただきました

震災復興の取り組みの一環として、福島県産の加工品を使用した商品の販売を行い、県産物の再生、活性化を行いたい、という想いのもと、平商業高等学校流通ビジネス科で「ファミマものづくりアカデミー」を開催しました。流通・マーケティングのスペシャリストをめざし、専門科目を学習した3年生10名が、約4ヶ月かけて、担当教諭やファミリーマート商品開発担当などと意見交換を行いながら、ハイビスカスの花をイメージした「フラピーイチゴパン」を商品化しました。

この「フラピーイチゴパン」は福島県のほか、東北および新潟県内のファミリーマート店舗にて2015年1月20日より約1ヶ月間販売されました。

当日、小泉政務官はこの日で3回目となる「フラピーイチゴパン」を試食。「ピーチピューレが甘すぎず、さわやかな甘さで、ぺろっと食べられますね。」と地域食材を生かした高校生たちの商品開発、という生きた体験の取り組みをととても評価してくださいました。

■「ファミマものづくりアカデミー」とは

学生に小売業、製造業、流通業について学んでもらうために、ファミリーマートの商品開発チームが学校でマーケティングの講義を行い、商品開発から発売までを経験してもらおうプログラムです。



内堀県知事へ表敬訪問をする
平商業高等学校の生徒の皆さん



【商品名】フラピーイチゴパン
【税込価格】135円
【コンセプト】

平商業高等学校のフラキャラが身につけているハイビスカスの花をイメージしたパン。

【内容】

いちごクリームを折り込んだパンで福島県産ピーチピューレ入りクリームを包み、焼き上げました。



技術・ノウハウで若い人たちに経験を積んでもらう
「ものづくりアカデミー」で開発された商品



継続的な被災地支援について活発に
意見交換が行われました

震災から4年 今企業に求められることとファミリーマートのCSR活動

震災から4年が過ぎようとしている中、小泉政務官は「震災から年月を経るごとに、復興支援に対し企業内で理解を得にくくなっていることが懸念されている。被災地の復興はまだ終わっておらず、今後も官民連携、被災地支援のマッチングの場を提供していくので、東北でビジネスチャンスは是非見出してほしい。また引き続き企業のCSRからの支援を含めた復興支援をお願いしたい」と述べました。

これに対し社長の中山より「引き続き、社会・生活インフラ企業として東北産の原材料、加工品などを使った商品を開発、販売し、事業を通じて復興のお役に立ちたいと思う」とコメントしました。



避難指示解除準備区域内に24時間店舗がオープン。被災地支援活動を継続していきます

2015年1月22日、福島県田村市都路町に初の24時間営業のコンビニエンスストア「ファミリーマート田村都路店」をオープンしました。

また1月30日には福島県楡葉町に避難指示解除準備区域内では初の24時間営業店舗「ファミリーマート楡葉町上繁岡店」をオープンしました。楡葉町上繁岡店は、東日本大震災にともなう原子力発電所事故の影響で震災直後から休業を余儀なくされていましたが、今回、一時帰宅者や近隣の復旧、復興作業に携わる皆さまへの支援を目的とし、約3年ぶりに営業を再開しました。

このほかにも福島県川俣町において仮設住宅内の出店や、避難指示解除準備区域内での移動販売車による販売（福島県南相馬市）など、引き続き被災地の皆さまに買い物のご不便を解消するとともに、支援活動を継続しています。

これからも「社会・生活インフラ企業」として、これらの事業活動を通じて、お客さま、地域の皆さまになくてはならない存在となることを目指してまいります。



田村都路店（1月22日オープン）



楡葉町上繁岡店（1月30日オープン）